

## 吉田宗恂とその周辺—コンピュータと図書館を活用して

### (3) 足利学校と小学集解

島野達雄

#### 1. 足利学校と小学集解

川瀬一馬『増補新訂足利学校の研究』口絵 56 頁にある『元版小学集解』は、国会図書館蔵となっているので、国会図書館デジタルコレクションで「小学」で検索し、「古典籍資料（貴重書）」で絞り込むと、隆慶 3 年(1569)朝鮮銅活字本の『諸儒標題注疏小学集成』、『琉球八重山列島見聞録』（これが小学とどういう関係にあるのかわからない）、明・程愈の『小学集説』、清・高愈の『小学纂注』、類書の『玉海 204 卷』などが表示される。

現在、国会図書館でデジタル公開されている『小学集解』は清・張伯行（康熙の進士）纂輯、上海商務印書館 1936 出版のもの。足利学校で用いられた元版ではない。清代の小学集解はいくつかの大学が所蔵しているが、関学図書館は所蔵していない。

CiNii Articles で最所顕文「小学集解の国訳（立教篇）」（日本倫理学会）という論文を見つけ、関学図書館で複写依頼をしたら、一週間もしないうちに、岐阜市立女子短期大学からコピーが届いた。240 円也。この論文、「九数」について、ほとんど解説していない。

#### 2. 諸儒標題注疏小学集成

国会図書館の『諸儒標題注疏小学集成』は、何やら怪しげな（？）「九数の図」が図篇にあるほか、朝鮮銅活字本であり、徳川家康旧蔵となっているので、大いに興味がわく。よって全冊ダウンロードした。

国会図書館の古典籍のダウンロードは、所定の画像にたどりついたら、「印刷」のボタンをクリックし、pdf 化する。一度に 50 ページしか pdf 化できない。小学集成は全部で 6 冊 417 ページある。50 ページずつダウンロードしたあと、1 つの pdf ファイルにまとめたり、トリミングするには、アドビー社のアクロバットが必要。なお、無料のアクロバット・リーダーは読む（表示する）だけに使える。

この朝鮮銅活字本・小学集成 pdf は 27-28p が九数の図。72p に有名な七年男女不同席があり、86-88p が周礼の六芸について、95p から一日方田以下の朱子の本注や程氏、熊氏の注釈が載っている。

国会図書館の「詳細書誌情報」にある解題は次の通り。

「小学」は南宋の朱熹の門人劉子澄の著。修身、日常道徳について述べる初学者のための書。本書は「小学」に対する宋・元諸儒の説を集録したもので、朝鮮朝世宗の勅命を奉じて儒者金汝が校讐、世宗 18 年(1436、正統元)に初鑄甲寅字を用いた初版が出された。甲寅字は 1434 年甲寅の年鑄造の銅活字。鮮明さ

と均整のとれた美しさで知られ、王朝末期まで幾度も改鑄使用された。本版は、宣祖 2 年(1569、隆慶 3)頃の改鑄甲寅字を使用し、漢陽(現、ソウル)校書館において印行されたもので、補字を多く混える。各冊に国王の方形朱印「宣賜/之記」があり、第 1 冊見返しに官版出版の際、百官に下賜された書物であることを示す隆慶 3 年の内賜記がある。徳川家康、徳川義直、細野要齋旧蔵書。

この解題から、当時の高麗が国をあげて刊行したことがわかる。百官に下賜された、とあるが、九数を理解していた官吏がいたのか、かなり疑問である。徳川家康はこの九数の図を見たのだろうか。